

高くなる女性の労働力率

前回に引き続き国勢調査の結果について見てみたいと思います。

平成17年10月1日現在の京都府の労働力率（15歳以上人口に占める労働力人口（就業者と完全失業者を合わせたもの）の割合）は、男性が74.5%、女性が48.2%となっています。

これを年齢別に見ると図1のようになり、男性は25～59歳の各年齢で90%を超える高い台形をしているのに対し、女性は25～29歳の75.4%と45～49歳の71.8%をそれぞれ頂点とし、35～39歳の62.3%を谷とするM字型となっています。

これは、結婚・出産によりいったん仕事を辞めた女性が、子育てが終わると再び就労することを示しており、従来から我が国の女性の特徴的な傾向です。

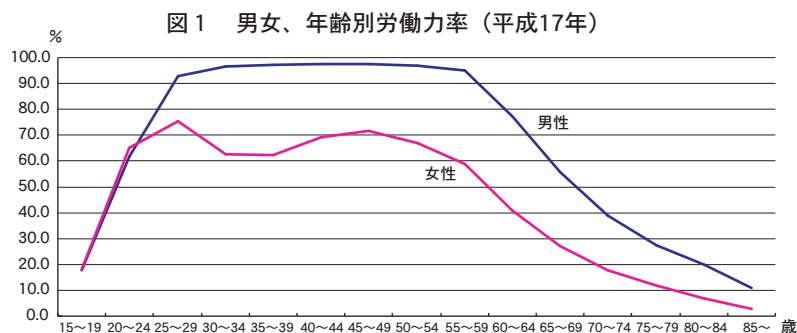
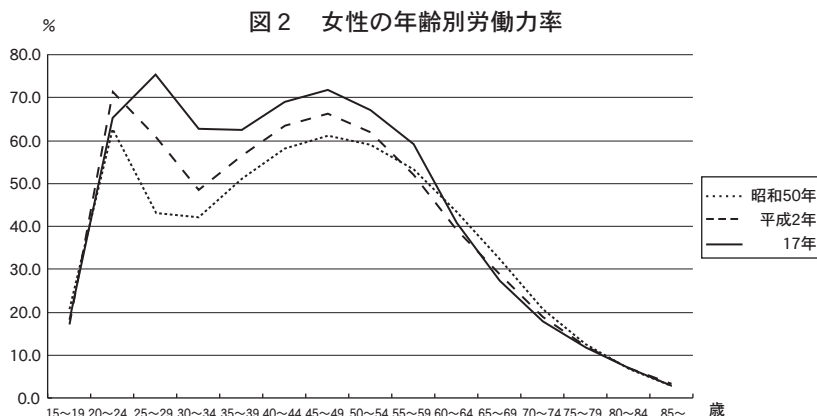


図2が女性のM字型曲線を経年比較したものです。谷の年齢を見ると昭和50年には25～34歳となっていますが、平成2年は30～34歳になり、平成17年になると30～39歳へと年齢が上昇しています。また、最初の頂点についても、昭和50年には20～24歳となっていますが、平成17年には25～29歳になっています。そして、全体的に割合が高くなるとともに、M字型が緩やかになっていることがわかります。



これは、女性の高学歴化や晩婚化が大きく影響していると考えられますが、結婚・出産しても仕事を辞めずに働き続ける方の割合が高くなっていることを表しています。